



平成16年8月30日発行

第二号

PTA 会長 西村 勝嘉

特別委員会「図書室と歩む会」

委員長 荒木 素子



高倉まつり大型紙芝居 「モチモチの木」



7月25日(日)の高倉まつりで“大型紙芝居”を行いました。4・5・6年生から10名の子どもたちの応募があり、5名ずつに分かれて、2回の公演を行いました。

言い回しの難しい『モチモチの木』でしたが、みんな頑張って練習をし、本番は素晴らしい出来でした。大型紙芝居の後、数遊びの『ウラパン・オコサ』を行い、子どもから大人の方々まで楽しんでいただけたと思います。来年は、もっとたくさん子どもたちに参加してもらい、もっとたくさんの方々にご覧いただきたいと思います。



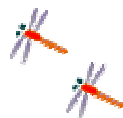
わくわくお話会

9月16日(木) 2時45分より 図書室

「あらしのよるに」「まゆとおに」他1冊の予定です。

毎月1回放課後に「図書室と歩む会」のお母さんたちが絵本を読んで、子どもたちとゆったりとしたひと時を楽しんでいます。10月以降の予定は、高倉だよりや手作りのポスター(下駄箱、図書室入口等掲示)で案内があります。興味のある方は、どうぞ覗きにきて下さい。

『ブックトーク・お話し』のお知らせ



9月2日(木) 2・3校時 3年生ブックトーク

場所 ランチルーム 講師 鈴木晴代さん

10月18日(月) 2・3校時 5年生ストーリーテリングとブックトーク

場所 視聴覚室 講師 千代田眞美子さん

10月29日(金) 2・3校時 4年生 お話し

場所 視聴覚室 講師 上岡裕子さん

学年に関係なくどなたでも御覧になれます。

どの講師の方も本やお話を子どもたちに届けることに熱い思いを持っておられます。

鈴木さんは、ブックトークでどうすれば、子どもたちが本に手を伸ばしてくれるかなと、

時には、クイズや小道具を使ったりして興味をひいて下さいます。

千代田さんは、ストーリーテリングといって部屋を暗くし、ろうそく1本の灯でお話を語

られます。子どもたちは、いっきにお話の世界に引き込まれます。

上岡さんは、お話しとして、子どもたちとのやり取りを交えて、絵本を声の表情豊かに

読まれたり、素語りといって本なしで耳からお話を聞くことを楽しませて下

さいます。

子どもの本って面白い!!

——子どもの本は子どもだけのものと思っ

ていませんか？河合隼雄氏は「大人も子ども

も読める本だ」と言っておられます。——

子どもと同じ本を読むことで、心が解き放た
れたり、忘れていた子ども時代を思い起こして、
今いる子どもたちの気持ちに寄り添えるかもし
れません。

また、大人の在り方、子どもたちとのかかわ
り方を気づかせてくれることもあります。

この秋、親子で、或いは、あなた自身の
ために、はたまた悩み多き子育ての一つ
の手がかりとして子どもの本を読んで
みませんか？

おすすめ本

「魔女の宅急便」 角野栄子作 福音館書店

宮崎駿のアニメでおなじみの方も多いのでは？

原作を読むとギャップを感じるかもしれません。アニメとはまた別もの。本でしか味わえない奥深さがあります。母と娘の葛藤、先々で出会う人々との交流、そして自分の居場所。13歳というひとり立ちの時の心のゆれが見事に描かれています。

おすすめ本

「くまの子ウーフ」 神沢利子作 ポプラ社

低学年向け。この本は是非子どもと一緒に読んでみて下さい。9つある話の中で、大人と子どもでは、お気に入りが入り違ったりします。

ガイドブックとしては

読み物なら

「物語とふしぎ」 河合隼雄著 岩波書店

「宝島へのパスポート」

今江祥智著 解放出版社

絵本中心なら

「絵本・子どもの本総解説」

赤木かん子著 自由国民社